

**平成26年度 第5回
水戸市ボランティア・NPO等との協働推進のための市民懇話会 会議の概要**

日 時 平成26年11月27日(木) 午後2時～4時
場 所 水戸市役所本庁舎南側臨時庁舎 3階 中会議室

(1) 水戸市協働推進基本計画(第2次)の経過報告

水戸市協働推進委員会や策定委員会での意見を紹介し、計画の変更点について説明した。また、今後の計画策定スケジュールを確認した。

(2) 協働おたすけナビについて

協働おたすけナビについて、前回の会議での意見を踏まえた変更点を説明し、「Ⅱ 協働を実践しよう」について協議した。

【主な意見】

・3ページの「ボランティア団体」について

(委員) ボランティアサークルとして活動している団体もあるので、「ボランティア団体(サークル)」等のように、文言を追加していただきたい。

(事務局) 文章中には、「サークルのような場合や…」と説明があるが、サークルとして活動している側としては違和感があるということなので、表現について事務局で検討する。

(委員) サークルは団体の中に含まれるものなので、「(サークルを含む)」等、表記には気を付けて修正していただきたい。

(委員長) 実際に活動している人から見ると、団体とサークルとの間で線引きされているようにも捉えられる。法人格などにこだわらなくても、みんなで協働に取り組んでいくということが伝わるような表現にしていきたい。

(事務局) 水戸では、団体とは違い、サークルだという認識で活動している団体も多くある可能性もあるので、社会福祉協議会にも相談しながら、表現について検討する。

・水戸市協働推進基本計画(第2次)との整合性について

(委員) 水戸市協働推進基本計画(第2次)の愛称を「こみっとプラン」という親しみやすいものに決めたのに、協働おたすけナビには、正式名称のみが書かれており、特に解説もない。こみっとプランについて表記し、みんなが関わって協働のまちづくりを進めていくという意味が込められていることを解説として加えてはどうか。

(事務局) 計画を市民の皆様にも親しみやすいものにするため、市民懇話会でたくさん意見をいただき、計画をまとめてきたが、それが協働おたすけナビ

に反映されていない状況があった。計画と協働おたすけナビの整合性を図りながら、修正を加える。

(委員) 1ページの図について、計画との整合性を図るため、「公共」という言葉は削除してはどうか。

(委員) 協働の枠組みのイメージはあった方がいいと思うので、「公共」は入れた方がいいと思う。

(委員) 市民の活動には、公共的な活動と私的な活動の2通りがある。計画では、「公共」という言葉を使わず、協働は「公益的な活動など」として分かりやすく整理しているため、計画の図に近づけた方が分かりやすいと思う。

(事務局) 「公共」という言葉自体が議論を呼ぶものであり、公共の意味を議論することは、ここでは本質ではない。また、計画では、「公共」という言葉を使わずに整理し、それに合わせることにより整合性もとれるので、「公共」という言葉は削除する。

・協働の現状把握について

(委員) 団体との協働が、現在も継続しているのか、終わってしまったのかなど、各課の協働の現状は把握しているのか。

(事務局) 各課に配置している協働推進員（ナビスタッフ）をとおして、各課の現状は把握している。

・PDCAサイクルについて

(委員) 「Action」は「行動」というイメージなので、「見直し」と日本語訳されていることに違和感がある。また、計画では「改善」となっている。

(事務局) 次へのステップとなるよう、事業の評価を踏まえて、見直しを行うという位置付けをしている。

(委員) 見直しをして次につなげるということが分かるように「次へのステップ」や「ステップアップするための見直し」などのように文言を変えてはどうか。

(事務局) 文言の修正と、サイクルが分かるような螺旋状にするなど、書き方を工夫する。

・文章表現について

(委員) 送り仮名や、カンマが統一されていないので、製本の際は修正していただきたい。例えば、「打合せ」を「打ち合わせ」に修正するなど。

(委員) 16ページに「3 修正 or 協働事業としては実施しない」とあるが、「or」の意味が分からない。表現を変更してはどうか。

(事務局) 意見を踏まえて分かりやすい表現に変更する。

- 11 ページ「なるべく複数の団体と協議して、比較検討します」について

(委員) なぜ「なるべく」なのか。

(事務局) 市内にはたくさんの団体があるため、できるだけ多くの団体と協議の機会をもつべきであることから、このような表現にしている。

- 16 ページ「3 修正 or 協働事業としては実施しない」について

(委員) 説明文の意味が分からない。

(事務局) 法的な制約や企画の熟度などの理由により、そこで終わりではなく、引き続き、事業の実現可能性を考えていくということである。

(委員) それに伴うQ&Aとして、予算がつかなかった場合をあげているが、予算がつかなかった場合でも、その後も市と話し合いができ、事業実現の可能性を模索していけるということが分かる表現になっておりとてもいいと思う。

- 19 ページ「事業の期間」について

(委員) なぜ3年なのか。

(事務局) 時限性の原則から、短い期間で見直しを行いながら事業を行っていくということで、目安として1年から3年としている。

- 19 ページ「成果物とその帰属」について

(委員) 例えばどのようなものがあるのか。

(事務局) 広報誌などの印刷物を作った場合、著作権をどちらに帰属するのかなどがある。

- 13 ページ「苦情や一方的な思いのみを伝えるのではなく」について

(委員) この文言を加えた理由は何か。加える必要はないのではないか。

(事務局) 協働を進める際に、このような傾向にあるのが現状である。協働が苦手な職員にとっては、一方的に苦情や思いを伝えているように感じる場合もある。

(委員) この文言は市民にとって失礼な表現だと思う。協働なので対等な立場で信頼関係をもって話し合う必要がある。

(事務局) 意見を踏まえて、表現について修正する。

- 13 ページ「提案シートを要しない場合もあるので」について

(委員) これはどのような場合を想定しているのか。

(事務局) 現在すでに行っている事業もあるので、それぞれの事業に合わせて柔軟

に対応していくものとして考えている。

(委員) 団体が市に事業の提案をする際にもマナーは必要だと思う。提案シートにしたがって提案内容をまとめた上で、市に提案するというルールを明確に作るべきだと思う。

(委員) 最初から例外を作ってしまうと、そちらに流れてしまうので、提案シートを提出することを原則とした方が良いと思う。お互いにルールを守りながら、同じ立場で信頼関係のもとに協働を進めていくものなので、「提案シートを要しない場合もあるので」は削除するべきだと思う。

(委員) 行政と団体が意思の疎通を図りながら協働を進めるためにも、提案シートは原則として作ることにする必要があると思う。

(事務局) 意見を踏まえて修正する。

(3) その他

- 次回の会議について

第6回市民懇話会を平成27年2月9日(月)午後2時から、水戸市役所本庁舎南側臨時庁舎3階中会議室にて行うことを確認した。

- 情報公開について

協働の原則に基づき、会議の概要をホームページで公表することの了承を得た。